

教職支援室便り（12月号）

令和4年 12月 9日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教職課程授業「教育実習事後指導」への支援 外部講師の先生方に感謝！！

本年7月26日（火）、教職課程授業「教育実習事後指導」において、外部講師として、3名の先生をお迎えし、教職の魅力や課題等について講話をしていただきました。3名の先生は、
宮崎市立恒久小学校 加藤貴士（かとう たかし）先生
宮崎市青少年育成センター 水元重夫（みずもと しげお）先生
前宮崎県立宮崎大宮高等学校 渡部祐一（わたなべ ゆういち）先生 です。

当日は、小学校、中学校、高等学校の3つのグループに分かれ、小学校：加藤貴士先生、中学校：水元重夫先生、高等学校：渡部祐一先生に担当していただき、充実した時間となりました。特に教育の本質に迫る講話は、学生の皆さんにとって、大変貴重なものとなりました。3名の先生方、お忙しい中、本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。



<小学校：加藤貴士先生>

<中学校：水元重夫先生>

<高等学校：渡部祐一先生>

学生の皆さんの感想の一部を紹介します。

<小学校>

私の考える、今教師に求められる資質・能力は、謙虚に学ぶ姿勢、そして時代に適応する柔軟性だと考える。加藤先生が言われたように、「しっかりしよう」としすぎると、自分のなりたい教師像と現実のギャップで疲弊してしまうだろう。そのため、何事も最初はできないことが当たり前で、謙虚に学ぼうという姿勢をもつことによって、大変な仕事もすべてが学びだと感じられるようになると思う。そして、時代に適応する柔軟性とは、最初に挙げたICTの活用などに慣れ親しむ力であると思う。これから教師になった際にも、教育スタイルや重視される教育内容は、変わっていくと思われる。そのときに、この変化についていく力が求められる。このようなときにも、最初に述べた視野を広くもつこと、そして謙虚に学ぶ姿勢をもっておくことは、柔軟に対応する能力につながると思われる。私はこれらの資質・能力を身に付けることによって、大変な教師の仕事の中でも、多くのやりがいを感じて、よりよい教育づくりに貢献していきたい。

<中学校>

水元先生の目立たない子にもしっかり目を向け、見えないものを見ようとするのが大事だという言葉が心に残った。水元先生は、教師は児童生徒に挑戦しろとは言うものの、自分自身はできていないという気付きから、先生自身がスカイダイビングに挑戦することで、身をもって挑戦することの大事さを、子どもたちに示された。挑戦したことを通して、これまでは見えていなかったもの、見ようとしていなかったものが見えるようになった、とおっしゃっていた。確かに、目立つものには勝手に目が行くし、目立たないものは見ようとしなないと気付くこともない。これが児童生徒理解にもつながっていると気付き、奥深いものなのだと思えた。今回、水元先生からとても貴重なお話を聞くことができ、本当に光栄だった。先生が学校で何を大事にされてきたのか、その背景や熱い思い、児童生徒への愛情を胸いっぱいを感じる事ができた。それは、水元先生が誠心誠意、教職や子どもたちと向き合ってこられたからこそそのものだったと思う。一生懸命に向き合われたからこそ、たくさんの気付きがあり、それを実践されてきて、そして私たちに教えてくださった。そして私たちがこの学びを実践し、また伝えていく。

<高等学校>

講話の中で渡部先生から、「生徒みんなに、本当に幸せになってほしいと願っている。」という言葉があった。そして、純粋に「このような先生のもとで、指導を受けた生徒たちは、きっと幸せだったに違いない。」と思う事ができた。さらに、このような言葉もあった。「子どもは宝であり、保護者から教員はその宝を預かっている。保護者は敵でもない、共に子どもを囲んで育てる仲間である。」近年では、「モンスターペアレント」という言葉をよく耳にするようになった。しかし渡部先生が仰っているように、保護者はただ子どもが心配なだけなのである。私自身、「保育士さんや先生は、モンスターペアレントが大変だよ。」と聞くことが今までに何度かあったため、大変だという考え方が頭の中にできあがってしまっていた。しかしそうではなく、保護者の宝（子ども）を私たちは預かっている、その宝を心配することは当然なのである。このような考え方をもっておられる渡部先生のような、人間力を兼ね備えた先生に、少しでも近づいていくよう努力していくことで、生徒の心も育てていくことができると考える。

教職特別講座：18名参加

教職特別講座が始まって、1か月あまりが経ちました。現在、3年生の18名の皆さんが参加しています。ぜひ最後まで、全員学び続けてほしいです。「継続は力なり」と言われますが、地道に、こつこつと積み上げていった力は、その人を支える土台（資質・能力）となるものです。卒業生の皆さんも、教職特別講座（旧：勉強会）を通して、教員としての資質・能力を向上させ、今学校現場で活躍しています。

なお、今回はすでに終わった演習も含めて、来年2月までの講座内容を紹介します。

日 曜	演習内容
10月18日（火）	オリエンテーション
10月25日（火）	体験講話 日本国憲法
11月 8日（火）	体験講話 日本国憲法 教育基本法
11月15日（火）	講話「不登校児童生徒の実態」（外部講師）
11月22日（火）	教育基本法 討論「教員の使命感とは（志望理由）」
11月29日（火）	学校教育法（施行規則）

12月6日(火)	学校教育法(施行規則) 地方公務員法
12月13日(火)	地方公務員法 討論「コンプライアンスとは」
12月20日(火)	教職課程履修者座談会
12月26日(月)	教育公務員特例法
1月6日(金)	第1回東京アカデミー模擬試験
1月17日(火)	教育公務員特例法 討論「学び続ける力とは」 教育法規演習問題
1月23日(月)～2月3日(金) 2月6日(月)～2月10日(金) 2月11日(土)～2月19日(日)	・後期定期試験期間 ・集中講義期間 ・卒論発表期間
2月14日(火)	学習指導要領の特色 ◇主体的・対話的で深い学び ◇カリキュラム・マネジメント ◇社会に開かれた教育課程 等 討論「主体的・対話的で深い学びとは」
2月16日(木)	学習指導要領等の改善(答申)
2月20日(月)	道徳教育・道徳科
2月21日(火)	討論「道徳教育の充実の方策」 コミュニティ・スクール
2月24日(金)	教員の資質・能力の向上 討論「教員の資質・能力の向上に係る方策」
2月28日(火)	いじめ防止対策推進法 場面指導

学生の皆さんの、教職特別講座への抱負

教職特別講座オリエンテーションを受けて、時間がありそうで、無いなと感じ、たくさんの演習を私にやりきれぬだろうかと、不安に感じたのが正直な気持ちです。自分一人では、絶対にこれだけの勉強をできないと思います。ですから、このような講座をして頂けるのは、本当にありがたいです。自分の目標は、自主性を持つことです。曾我先生から、先輩方の話を聞き、「自分から勉強したい」と思う気持ちが大事で、これから先、役立つことになるんだろうなと感じました。このことを意識して、演習をこなしていきたいです。

オリエンテーションで教職特別講座の説明を聞いて、このような講座を受ける機会があるのは、本当に有難いことだと思いました。そして、ここでの学習は採用試験合格のためだけではなく、実際の現場での教師の仕事に活かすためでもあると聞き、尚更にこの機会を逃してはいけないと感じました。また、自分の力のみではなかなか難しく大変な勉強でも、同じ目標を持つ皆となら、乗り越えることができそうな気がしています。最後まで一緒に頑張っていきたいです。これからよろしくお願い致します。

教職特別講座では、教員採用選考試験に関する演習を行い、採用試験合格を目指しながら、教員としての資質・能力を高めることが目的とされています。私は卒業後、自分の故郷で教員をしたいと考えています。この特別講座を受講し、採用試験に合格することを目標に掲げるとともに、故郷で活躍できる教師となれるよう、特別講座で教員の資質・能力を高めたいです。また、仲間と共に頑張ることで自分に自信をつけて、実習や採用試験、教員という仕事に挑みたいです。

道徳の教科化に思う！（シリーズ67）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、「道徳科の授業における内面的自覚とは ～内面的自覚と『展開後段』の重要性～」をテーマに、その3として『展開後段』における学習活動・内容（例）と実践例』についてまとめました。

1 「展開後段」における学習活動・内容（例）

道徳科の特質に則した道徳授業を確実に構築するためには、11月号で示した内面的自覚の姿を有効に活用して、児童生徒が道徳的価値の内面的自覚の深まり、高まりを自覚する、学習活動・内容を計画する必要があります。今回は、その「展開後段」の学習活動・内容等を紹介し

学習活動・内容	指導上の留意点 ☆教師の支援	資料準備
1 ワークシートを見て話し合う。	<p>・価値の内面的自覚の姿を表にまとめ、記号化して示し、自分はどの内容に近いかを選択させるとともに、選択した理由を考えさせる。</p> <p>☆今日は、教材「〇〇」の主人公の、気持ちや考えを通して学習しました。それでは、ワークシートにある項目の中から、今の皆さんの気持ちに一番近いものを選んでください。また、選んだ理由も書いてください。</p>	ワークシート
2 選択した理由について話し合う。	<p>・選択した理由を問うことにより、価値の内面的自覚の深まり、高まりを意識させる。また、友達の考えを聞きながら、自分の考えに付加したり、修正したりするよう助言する。</p> <p>☆選択した項目と、選択した理由を発表してください。</p>	ワークシート
3 選択した理由から、これまでの経験（体験）を想起し、話し合う。	<p>・主体的にこれまでの経験（体験）を想起させる中で、展開前段の学習の高まりを失うことなく、これまでの自分を振り返り、今の自分を認め、これからの自分へと広げていくよう導き、学習への成就感をもたせながら終末へとつなぐ。</p> <p>☆今皆さんは、たくさん大切な発表をしてくれました。先生は皆さんがそのように感じたり考えたりしたのは、これまでに何か経験（体験）があったからだと思っています。発表してくれませんか。 （発表を受けて）</p> <p>☆・・・そうなのですね。皆さんは、これまでいろいろな経験（体験）をしてきたのですね。これからの自分について、考えたことはありますか。</p> <p>☆実は、先生もお話をしたいことがあります。</p>	

この取組により、「展開前段」と「展開後段」に連続性が生まれ、児童生徒の高まった心情は失われることなく「終末段階」まで持続されます。また、「展開後段」における経験（体験）の想起に必然性が生まれ、児童生徒が主体的にこれまでの自己を振り返ることができます。今後の授業実践が望まれます。

2 実践例

(1) 教材名

「二さつのノート」（道徳副読本より）

(2) 対象学年

小学校5・6年生

(3) 内容項目

B-（7）「親切、思いやり」

人には、代償や利害関係を考えての行為をとったり、助けたいと考えてはいても、実行に移せなかったりする弱さがあることに気付かせながら、思いやりのある行為は他者を尊重する心から行われることを理解し、誰に対しても心のこもった態度で接しようとする心情を育てる。

(4) 教材内容（概略）

転校生の夏子は、なわとび遊びに入れてもらおうとするが、リーダー格の和江に無視され、寂しい思いをする。そのうち、和江は盲腸で入院することになる。その間の勉強が遅れないように思った夏子は、和江のためにノートづくりを始め、退院後に手渡すという内容である。

(5) 学習活動・内容（概略）

児童が内面的自覚の姿を意識し、自己の考えの深まり、高まりを自覚しながら、生き方についての考えを深めることができるよう、先述した項目1の学習活動・内容を展開した。

(6) 児童のワークシート記載内容

児童が内面的自覚の姿ア～ケの中から1つを選択し、その理由を書いたものである。

① ア 今まで気付かなかったことに・・・気付いた

ぼくは、夏子さんの思いやりで和江さんが泣いたことで、自分が気付いていなかった人の思いやりに気付いた。それは、親切にしてあげようと思いながら、なかなかできなかったことがあったから。

② イ もやもやしていたことが・・・はっきりした

今まで、この人はきらいだから手伝ってあげないとか、この人は好きだから手伝ってあげようとか、もやもやしていたが、今日の勉強をしてだれに対しても親切にすることの大切さがはっきりした。夏子さんのように、いろいろなことを考えられる人になりたい。

③ ウ わかっていたいなかったことが・・・わかった

昔、いやな人がけがをして、その近くを自分が通っても知らん顔をしたことがあった。だれに対しても親切にしないといけない、ということがわかっていなかった。でもそのことがわかったような気がする。

④ エ 迷っていたことが・・・確かになった

助けたいけどはずかしいと思っていたので、迷う気持ちがあった。でも、勇気をもって思いやりのあることをすることが、大切だとはっきりわかった。相手の立場を考えるようにしていきたい。

⑤ オ 足りないところが・・・よくわかった

ぼくはこの勉強で、自分には人への思いやりや親切な心が、あまりにも足りないことがわかった。そのわけは、この勉強のとき自分の心を素直に言ったら、親切な心がぜんぜんない意見になっていたからだ。思いやりや親切にすることは、むずかしいことだと思った。

※カ～ケについては、紙面の都合で掲載しませんでした。

